

## 白滝黒曜石遺跡ジオパーク構想について

### Geopark project for Paleolithic obsidian stoneware sites and Periglacial relics in Shirataki, Hokkaido

# 亀和田 俊一 [1]

# Shunichi Kamewada[1]

[1] 白滝黒曜石ジオパーク協議会

[1] G.P.P.S.

<http://www16.ocn.ne.jp/~srnk-gp/>

北海道遠軽町白滝・丸瀬布地域には世界的規模の黒曜石鉱体とこの旧石器時代加工遺跡群が存在する。また、この周辺には周氷河レリックなどを含む高いレベルの自然生態環境が残されており、ジオパークサイトとして適地である。

白滝は、世界第一級の黒曜石原産地（鉱体規模約60億トン）で、周辺に旧石器時代の多数の組織的石器工房遺跡群が存在する（100箇所以上を確認調査）。ここで生み出された黒曜石細石刃加工技術（湧別技法）や黒曜石石器が三内丸山遺跡などから広く産出しアムール川流域にも達していたことなどからは、古代物流ネットワーク（黒曜石の道）の存在が想起される。また隣接する丸瀬布地区には永久凍土層や風穴（氷穴）があり、周辺地にはナキウサギが生息するなど周氷河環境レリックが見られる。この地域は北海道でも有数の森林地帯であり、明治開拓期以来多くの木材資源を供給し、今なお多様な植生生態系を支える。「白滝黒曜石遺跡ジオパーク構想推進協議会」は、これらの恵まれた地質学・考古学・生態学的資源を維持保全し、観光や教育啓蒙に活用する地域振興活動を目指している。なお当地域内の「白滝遺跡群」、「森林鉄道雨宮号」は北海道遺産に選定されている。